



2024年

4月第3・4週の主日礼拝説教要約

・4月21日 ヨハネ福音書21：15 - 19（1-19）.

『 牧羊者となれ 』

・4月28日 ヨハネ福音書14：23 - 29.

『 平安の形見 』

衣笠病院教会 牧師 宮原晃一郎

《 牧羊者となれ 》

朝のガリラヤ湖の岸辺に謎の人物が出現します。その人は湖の漁師と思しき者らに対し「舟の右側に網を打て」と命じます（ヨハネ福音書21：6）。謎の人物は、死からの復活後、すでに、二度にわたり、弟子たちの前に顕現していたイエスです。その日の出現は三度目のことでした。

夜通し漁をしていた彼ら（弟子たち）の網に魚はかかることはなく、仕方なくそれを舟に巻き上げようとしていた時の事です。命じられるが儘に彼らが再び湖上に網を打つと、今度は一網打尽に魚が捕れます。

思えばこの漁師のうちの何人かが、網を捨ててイエスにつき従ったのは、たったの三年ほど前のことでした。

今、私（＝主）は多くの漁師を遣わし、漁師たちは彼らをすなどる。

今日の引用箇所はエレミヤ書に出てくる言葉です（同書16：16）。「彼ら」とは、バビロニア捕囚の憂き目にあっている“イスラエルの子ら”だということです。ただ、神は彼らを一網打尽に救出しようとしているのではなく、その必要があれば半ば強制的に“漁る（すなどる＝帰還させる）”というわけです。羊の群れを導く羊飼いに、ではなく、荒くれ者の漁師のように“一網打尽”に連れ帰って、彼らを神の監視下に置くために。

さて、ヨハネ福音書の場面は、ある朝、謎の人物（復活のイエス）の命令に従うと魚が一網打尽に捕獲できた話の続きです。

イエスは、元漁師で弟子のリーダーを務めていたシモン・ペトロに対し言いました。もしあなたが私を愛しているのなら、①私の小羊を飼いなさい、②私の羊の世話をしなさい、③私の羊を飼いなさい。これらは羊の成長に合わせた牧羊者の段階的な対応（＝飼育）を表現しているように思われます。イエスはリーダーのシモン・ペトロとその背後にいる弟子たちに対し、「羊」に譬えて語られたキリスト者に対する丁寧な牧会（育成）を託そうとしています。一網打尽とは真逆の。しかし、そもそも、もともと荒くれ者だった彼らにそんな細かな任務が果たせるのでしょうか。

後に生まれ変わる弟子たちの姿を知るためには「使徒言行録」の記述が欠かせません。

エルサレムで聖霊降臨を体験した弟子たちが変えられて、優しく生きていく姿がそこには記されています。それらの活動の全てが“イエスの名によって”なされたが故に。

譬えに出てくる“羊の飼育”の条件は、何よりも「イエスを愛すること」でした。そして、生まれ変わった弟子たちの活動は、何はともあれ、彼らがイエスを愛し、祈り、さらにイエスの名によってこそ、細かな配慮がととのい、成し遂げられたことは明らかでした。

《 平安の形見 》

イエスを愛し、イエスの名によって、後の日に事を成し遂げる弟子たちに、大きな力を与えたのは聖霊の力によるものでした。使徒言行録に出て来る“聖霊降臨”は一つの超常現象として記述されますが、その内実が詳しく語られていたわけではありません。それを知るためのヒントは、ヨハネ福音書にあるイエスの告別説教を読むと出てきます。

特筆すべきは14章26節以下に記された言葉です。

弁護者、すなわち、父(なる神)が私の名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたに全てのことを教え、私が話したことをことごとく思い起こさせてくださる。私は平和(平安)をあなたがたに残し、私の平和(平安)を与える。私はこれを、世が与えるように与えるのではない(世が与えるようにではない仕方で与える)。

つまり、私たちの手元にある福音書に記されたイエス・キリストの言葉は、聖霊の力によって後から“思い起された言葉”が、そのまま書き記されているのかもしれませんが。また、世が与えるような仕方でないかたちで与えられる平和(平安)とは、こちらも聖霊の力によってもたらされる信仰によるものと考えられます。

旧約聖書の箴言の中にある言葉は、これらの事実と大いに関連するところがあります。

まさしく、主が知恵を授け、主の口から知恵と英知が出る…まさしく、知恵があなたの心に来て、知識が魂の喜びとなる。慎みがあなたを守り、英知があなたを見守る。 (箴言2：6以下)

神の口から出る一つ一つの言葉こそ、神の「ロゴス」であることを、ヨハネ福音書は、そのはじまりで教えます。そのロゴスの中にある知恵、知識、英知によって弟子たちの心や魂が喜びで満たされ、将来、奉仕の業に専念することが可能となることでしょう。また、これらのことがもし実現していなかったならば、おそらく原始キリスト教会の宣教も、また運営も、一切、成立しなかったはずです。神の国を宣べ伝え、人々を癒すことも叶わなかったであります。

古代、バビロニア捕囚から連れ戻されたユダヤ人たちが、心を貧しくさせられたままの状態から、幸いにも立ち直ることができたのは、まさしく箴言に記された神のロゴスの力によるものでした。

そのロゴスが時を超えて人となり、私たちの間に宿られたのがイエス・キリストです。(ヨハネ福音書1：14)

さらに、イエスが天に帰られたあとに弟子たちの後見となったのが神の聖霊の存在でした。